

## Best Available Copy

⑨ 日本国特許庁 (J P)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U) 昭61-38484

⑫ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)3月11日

F 26 B 5/14

7380-3L

A 45 B 11/00

6766-3B

F 26 B 5/16

7380-3L

審査請求 未請求 (全2頁)

⑭ 考案の名称 雨傘の搾水機

⑮ 実 願 昭59-122194

⑯ 出 願 昭59(1984)8月9日

⑰ 考 案 者 水 野 雅 弘 埼玉県北埼玉郡北川辺町柳生152-26

⑱ 出 願 人 鐘 紡 株 式 会 社 東京都墨田区墨田5丁目17番4号

⑲ 代 理 人 弁 理 士 安 形 雄 三

## ⑳ 実用新案登録請求の範囲

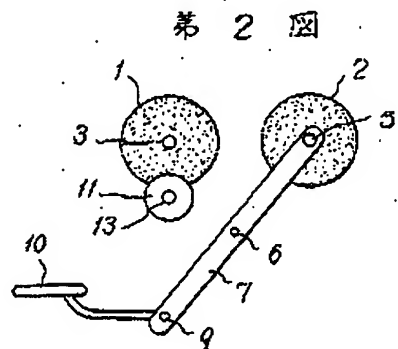
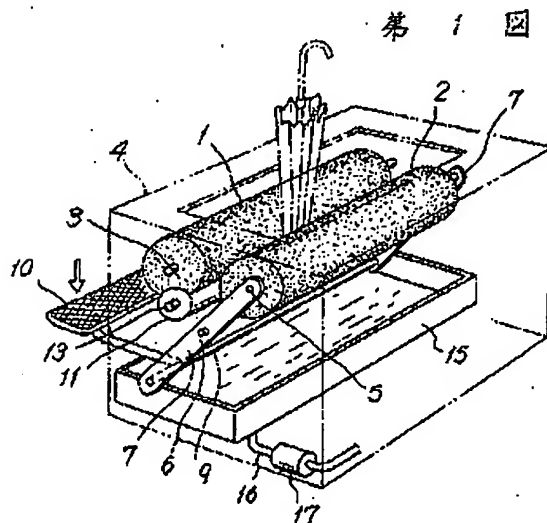
機枠に、少なくとも一方が他方に対し離接方向に移動可能で回転自在に支持された吸水及び保水性に富む多孔質体から成る1対の吸水ロールと、これら吸水ロールの少なくとも一方の直下部にあつて前記吸水ロールの下部周面を括ませて食い込むように正接して回転自在に設けられた剛性を有する材料から成る搾りロールと、前記一方の吸水ロールを他方の吸水ロールに対し離接する方向に移動させる操作手段とを具備することを特徴とする

る雨傘の搾水機。

図面の簡単な説明

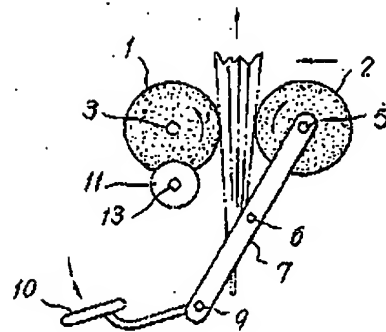
第1図はこの考案による傘立の搾水機の一実施例を示す斜視図、第2図は同不使用時における各ロールの位置関係を示す側面図、第3図は同使用時における各ロールの位置関係を示す側面図である。

1, 2…吸水ロール、4…機枠、7…支持アーム、10…足踏ペダル、11…搾りロール、15…水留め。



実開 昭 6 1 - 3 8 4 8 4 ( 2 )

第 3 図



JP,61-038484,U

☒ STANDARD ☐ ZOOM-UP ROTATION No Rotation ☐ REVERSAL

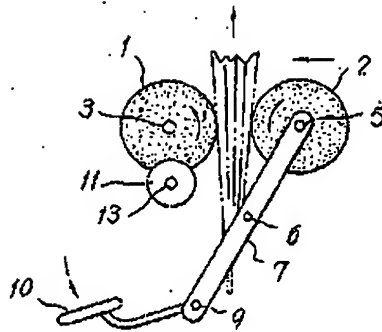
RELOAD

PREVIOUS PAGE

NEXT PAGE

実開 昭 6 1 - 3 8 4 8 4 ( 2 )

第 3 図



# 公開実用 昭和61-38484

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報(U)

昭61-38484

⑫ Int.Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)3月11日

F 26 B 5/14

7380-3L

A 45 B 11/00

6766-3B

F 26 B 5/16

7380-3L

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 雨傘の排水機

⑮ 実 願 昭59-122194

⑯ 出 願 昭59(1984)8月9日

⑰ 考 案 者 水 野 雅 弘 埼玉県北埼玉郡北川辺町柳生152-26

⑱ 出 願 人 鐘 紡 株 式 会 社 東京都墨田区墨田5丁目17番4号

⑲ 代 理 人 弁理士 安形 雄三

# 公開実用 昭和61- 38484

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 雨傘の搾水機

### 2. 実用新案登録請求の範囲

機枠に、少なくとも一方が他方に対し離接方向に移動可能で回転自在に支持された吸水及び保水性に富む多孔質体から成る1対の吸水ロールと、これら吸水ロールの少なくとも一方の直下部にあって前記吸水ロールの下部周面を挟ませて食い込むように圧接して回転自在に設けられた剛性を有する材料から成る搾りロールと、前記一方の吸水ロールを他方の吸水ロールに対し離接する方向に移動させる操作手段とを具備することを特徴とする雨傘の搾水機。

### 3. 考案の詳細な説明

#### (考案の技術分野)

この考案は雨傘の搾水機に関し、特に水垂れしない状態として屋内であっても携行すること



ができるようにした雨傘の搾水機に関する。

(考案の技術的背景とその問題点)

ホテル、百貨店のスーパーマーケット、病院、映画館、劇場等の不特定多数の人が出入りする場所では、雨に濡れた傘を壁内に持ち込まれると、水垂れとしてフローアを濡らし、床面を汚したり、水により滑って危険であるため、通常出入口に傘立を設置し、入室する前に水濡れした傘を置いて入るようにさせているが、多数の人数の出入りがある場所では入場者数が多いため大型の傘立を置かなければならず、広いスペースを必要とするなどの欠点があるうえ、キーを備えた傘立であればよいが、単に挿入しておくのみの傘立では傘の間違いが生じたり、盗難に合うなどの問題がある。

そこで、建物等の入口にビニール袋を用意しておき、これに雨濡れした傘を挿入するようにし、各自に携帯させるようにしているところもあるが、これによるとビニール袋に雨濡れした傘を挿入すること自体容易でなく、手を濡した

## 公開実用 昭和61- 38484

り、他の持ち物を濡らすなどの不都合があると共に、使用し終えたビニール袋を回収しなければならず、また回収個所にビニール袋が散乱して美感を損ない、その清掃も容易でないという欠点がある。

（考案の目的）

この考案は上記従来技術の問題点に着目し、これを解決することを目的とするもので、簡単な操作により雨濡れした傘の雨露を搾りとり、水垂れしない状態として携行することができるようにした雨傘の搾水機を提供するものである。

（考案の概要）

上記目的を達成するためこの考案においては、機枠に少なくとも一方が他方に対し離接方向に移動可能で回転自在に支持された吸水及び保水性に富む多孔質体から成る1対の吸水ロールと、これら吸水ロールの少なくとも一方の直下部にあって上記吸水ロールの下部周面を挟ませて食い込むように圧接して回転自在に設けら





れた剛性を有する材料から成る搾りロールと、上記一方の吸水ロールを他方の吸水ロールに対し離接する方向に移動させる操作手段とを具備し、吸水ロール間の間隔を開いたうえで兩漏れした傘を上部から挿入し、吸水ロール間を閉じて傘を引上げることにより傘布と吸水ロールとの摩擦接触により吸水ロールに回転を与え、これにより傘布に付着した水分を吸水ロールに吸水させ、水を含んだ吸水ロールが回転する間に搾りロールにより搾られて機枠の下方に回収されるようにしたことにある。

#### (考案の実施例)

以下、この考案の実施例を図面について説明する。

1対の吸水ロール1, 2は吸水性、保水性に富む多孔質体から成るもので、この多孔質体としては例えば特公昭48-20019号公報に示されるような、ポリビニルアセタール(PVA)系多孔質体が用いられる。

図示実施例では、一方の吸水ロール1は位置

## 公開実用 昭和61- 38484

固定とされ、他方の吸水ロール2は上記吸水ロール1に対し離接する方向に移動自在とした場合について示しており、一方の吸水ロール1の軸3は箱形状をなす機枠4の上部開口部を横切るように上部壁面に回転自在に軸承され、他の吸水ロール2の軸5は機枠4の側壁の内側に中間部が軸6、6により枢支された1対の支持アーム7、7の上端部間に回転自在に支承されている。この支持アーム7、7の下端部をつなぐレバー9の側方には、足踏ペダル10が機枠4の側面に突出するように設けられ、このペダル10を踏むことにより支持アーム7、7が揺動して可動側の吸水ロール2が位置固定側の吸水ロール1の周面に当接する方向に移動されるようにして操作手段を構成している。

上記吸水ロール1の直下位置には、金属、合成樹脂、その他剛性のある材料で作られた搾りロール11が機枠4の側壁間に軸13により回転自在に支持して設けられ、この搾りロール11の周面は吸水ロール1の周面を撓ませて食い込むよ





うに圧接されている。機構 4 の内部下方には水留め 15 が設けられており、この水留め 15 には排水ホース 18 が接続されていて、自然排水又はポンプ 17 により強制排水させるようになっている。

なお、上述の実施例では足踏ペダル 10 を踏んでいる間、吸水ロール 1, 2 が互いに圧接されるようにしているが、これは吸水ロール 1, 2 を常時ばね付勢より圧接させておき、足踏ペダル 10 を操作したとき離間して傘を挿入するようにしても良く、また、吸水ロール 1, 2 の開閉操作手段は、足踏ペダル 10 に代え手で操作するようにしても良い。更には、ボタンとモータ等の回路で自動的に行なうようにすることも可能である。

次に作用を説明する。

第 2 図の状態において、雨に濡れた傘を吸水ロール 1, 2 間に上方から挿入し、足踏ペダル 10 を踏むと、支持アーム 7, 7 が旋回して可動側の吸水ロール 2 が傘に圧接する（第 3 図）。

**公開実用 昭和61- 38484**

ここで傘を除々に上方に引き抜くようにすれば、傘布に付着している雨露は吸水ロール1, 2に吸水されながら傘布と吸水ロール1, 2との摩擦接触により吸水ロール1, 2が矢印方向に回動され、吸水ロール1, 2に吸水された水分は搾りロール11と圧接している部分に至った時、その体積が極端に圧縮されることによって十分に搾られ、機枠4内の水留め15内に滴下して回収される。また、吸水ロール2に吸水された雨露は吸水ロール1に吸水され、これが搾りロール11で搾りとられることになる。たがって、吸水ロール1, 2の傘布に接触する箇所は、常に搾りロール11, 12により水分が搾られた部分であり、そのため吸水効果が極めて高いものとなる。

このように傘を引き抜き終るまでの間に、傘布に付着していた雨水は全て吸水ロール1, 2に吸いとられて除去され、引き抜いた後、傘を手に携行しても水垂れしないことは勿論、着衣や持ち物に触れてもこれを濡らすことのない状





態になる。なお、傘の濡れ具合により足踏ペダル10の踏み力を加減することにより所望の搾り状態が得られ、また傘がひどく濡れている場合には、上記の搾り操作を2回乃至はそれ以上繰返すことにより完全に水分を除去することができる。

上述では搾りロールを1個とし、吸水ロール1に食い込むように設けているが、吸水ロール1、2にそれぞれ設けるようにしても良い。

#### (考案の効果)

以上説明したようにこの考案は、機枠に少なくとも一方が他方に対し離接方向に移動可能で、回転自在に支持された吸水及び保水性に富む多孔質体から成る1対の吸水ロールと、これら吸水ロールの少なくとも一方の直下部において吸水ロールの下部周面を撓ませて食い込むように圧接して回転自在に設けられた剛性を有する材料から成る搾りロールと、一方の吸水ロールを他方の吸水ロールに対し離接する方向に移動させる操作手段とを設けた構成としたので、

## 公開実用 昭和61- 38484

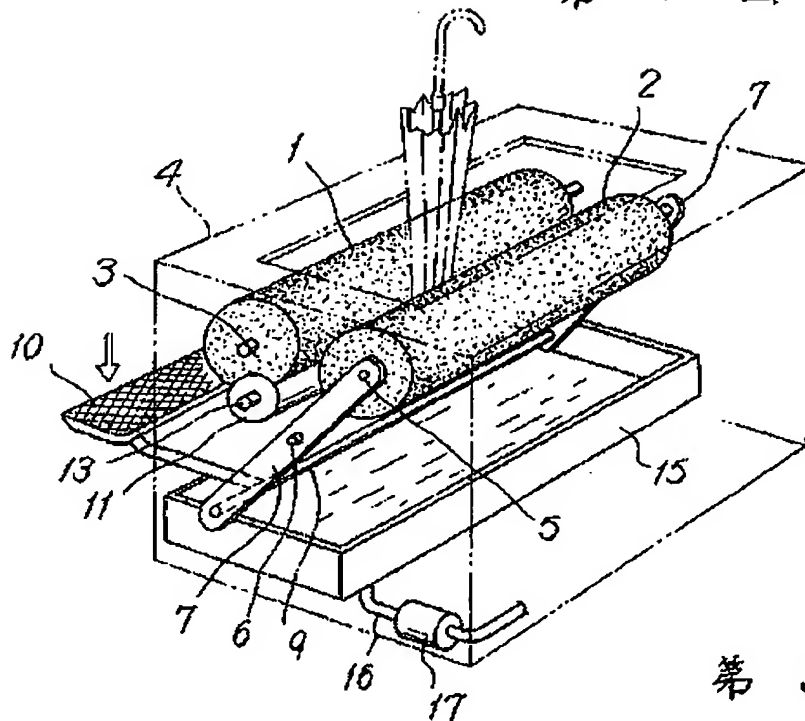
吸水ロール間に雨に濡れた傘を差し込んで引き抜くのみ簡単な操作により、傘布に付着した水分をほぼ完全に拭い去ることができ、そのまま屋内に携帯しても水垂れすることがなく、床や衣服類を濡さず、また設置スペースも在来の傘立に比し極めて少なくてすみ、機枠のデザインを工夫すれば、建屋の入口に設置する置き物として美観を損なうことがないなど、従来の傘立やビニール袋使用による種々の欠点をすべて解消することができる優れた効果がある。

### 4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案による傘立の抑水機の一実施例を示す斜視図、第2図は同不使用時における各ロールの位置関係を示す側面図、第3図は同使用時における各ロールの位置関係を示す側面図である。

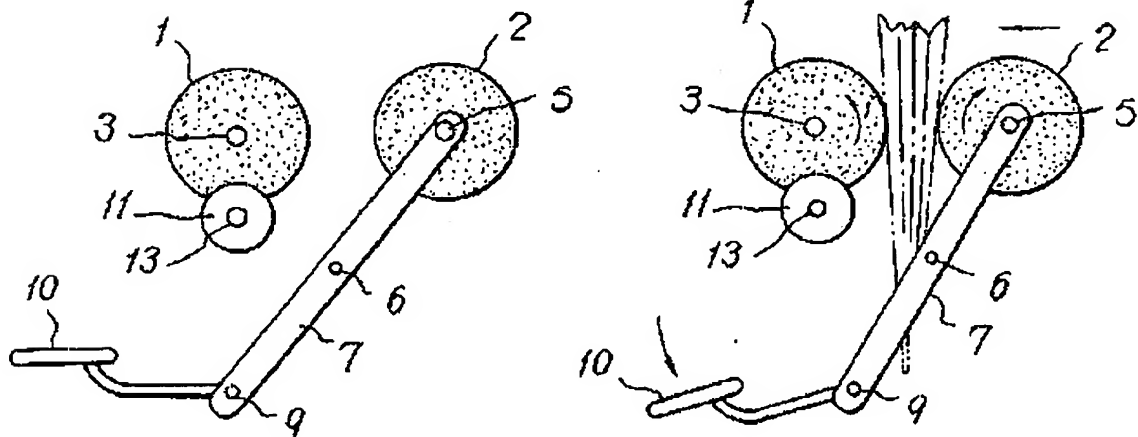
1,2 …吸水ロール、4 …機枠、7 …支持アーム、10 …足踏ペダル、11 …抑りロール、15 …水留め。

第 1 図



第 3 図

第 2 図



936

実開 61-38484

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER: \_\_\_\_\_**

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**